

新^{しん}緑^{みどり}

ニ

ユ

ー

ス

病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院

〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL. 045-984-6216 (直通)



～「骨盤臓器脱患者の日常」～

婦人科部長 清河 薫

ある日のこと、夫（80代）と娘（50代）に連れられて女性（80代／軽度認知症あり）が受診されました。

医師：「どうされましたか？」

夫：「実は娘がネットでいろいろ調べて、知人からもここが良いって聞いて来ました。」

娘：「母達とは少し離れて暮らしているのですが、2週間前父から電話で母が頻繁にトイレに行き下着も汚れていることを相談されたので、すぐに母を近くの病院に連れて行ったのです。」

医師：「そうでしたか。そこでどんなことを言われましたか？」

娘：「そこは母が血圧の薬をもらっている内科クリニックで、その日は尿検査をして膀胱炎でしようと言われました。抗生剤を処方されて飲みましたが、あまりよくなっていないようです。」

夫：「先週デイサービスでお風呂に入れてもらったら、施設の方から股のところに丸いものがあるから病院に連れていけと言われて、自分も試しに見てみたら確かに握りこぶしぐらいものが見えたから、すぐにまた娘に電話しました。」

娘：「私もすぐにネットで骨盤臓器脱という病気を知って、たまたま知人に相談したら、その方から母親もこの病院で手術をしたことを知り、こちらを勧められました。」

医師：「そうでしたか。大変でしたね。お父さんもびっくりされたことでしょう。お話からすると確かに骨盤臓器脱という病気ですね。では、まず確認をさせてください。」

ご本人様に了解を取り、内診台で診察をした結果、高度な膀胱瘤と完全子宮脱が認められ、脱出した膀胱粘膜に擦過傷ができて出血していました。ご家族様に当科が行うNTR法による骨盤臓器脱手術について説明をしました。以下がご家族様との質疑・応答です。

夫：「病気や手術のことはよくわかりました。いつからこの状態だったのでしょうか？ 妻は家ではほぼ自分のことは自分でやっていて、病気のことはなにも言っていなかったんですよ。」

医師：「産後から徐々に下垂し、膣の入り口に丸いものが出てきて気づくのですが、かなり前から出ていたと思われます。」

場所が場所なだけに言い出せなかったのかもしれませんが。自分さえ辛抱すればいいと思っている女性が多くいらっしゃいます。」

本人：「私は何ともないよ。早く帰ろう。」と、今までずっと無言だった本人がはじめて口を開く。

娘：「このままほっといたらどうなりますか？」

医師：「決まってこうなるということはいえませんが、診察では残尿がとても多かったため、尿が出にくいのと尿が残るのですぐにまた行きたくなるのでしょう。膀胱炎になりやすく重篤な腎盂炎に発展するケースもあります。」

娘：「母は高齢ですが、手術で注意することはありますか？」

医師：「年齢ではなく全身状態で判断します。お母様は軽い認知症と高血圧があるぐらいで、今日も自分の足で歩いていられています。予定では全身麻酔で60分程度の膣式手術ですので体力的には問題はありません。ただし、入院中はせん妄といってご本人様が自分の置かれている環境を正しく認知できずにとてもしばらく不安定な状態になってしまうことがあります。」

娘：「それって大丈夫ですか？」

医師：「大丈夫です。一過性の意識障害ですので数日で元に戻ることが多いです。もしご家族様が面会に来ていただければより早く落ち着くことができます。」

娘：「それを聞いて安心しました。その時は協力します。」

夫：「今まで気づいてあげられなくて悪かったけど、手術でよくなるなら早く先生に手術をしてもらおう」と本人に声をかけたところ、本人は軽く頷いた。

その後手術は無事に終わり、軽いせん妄は見られたが回復、退院後ご家族様の話によると家ではトイレに行く回数が増え、生活が楽になったようです。



7月より選定療養費がかかります

令和7年4月より、かかりつけ医から紹介された患者さんに、より専門的な治療・検査を提供する医療機関として、神奈川県から紹介受診重点医療機関の指定を受けました。

本制度に則り、令和7年7月1日より紹介状なしで受診する場合は、初診時・再診時に選定療養費（初診時7,700円・再診時3,300円）がかかります。

皆さまにおかれましてはご理解くださいますようお願い申し上げます。

部署紹介 | 入退院支援室

入退院支援室 石本 寛子

入退院支援室は2025年度から看護師を増員し本格的に稼働した部署です。文字通り入院時・退院時に支援を行っています。

では、一体どんなことをしている部署なのか？ご想像がつかないと思います。私達がどんなことをしているのかお話しさせてください。

まず入院時支援は、患者さんが安心して入院生活を送り治療に集中できること、無事に退院を迎える事ができることを目標に支援をしています。入院が決まった（予約・緊急）患者さんから、看護に活用するための情報をいただき、入院生活や入院時に必要な物を説明し、不安や疑問を解決して入院が出来るようサポートしています。

そして、お伺いした情報をもとに、退院後の生活へスムーズに移行できるようにすることが役割です。

治療後の身体で、自宅や施設で過ごせるか不安を感じる患者さんも多いと思います。退院支援では、そのような患者さん・ご家族に対して、入院時から治療と並行してご相談を開始します。退院後の生活環境や療養状況に配慮したうえで、医療機関と在宅サービスの連携をとり、ご自宅で安全に安心して生活できる環境を整えることが退院支援の主な役割です。MSW（医療ソーシャルワーカー）とともに看護師の視点で生活を捉え、患者さん・ご家族と一緒に退院後の生活を考えています。私達はこのような業務を担っています。皆様のお役に立てるよう尽力して参ります。



2025年度 言語聴覚士（ST）主催の地域連携研修会を開催しました

言語聴覚士 武田 尚

7月12日（土）近隣施設をお招きし地域連携研修会を行いました。各施設から多職種が参加され大変有意義な会になりました。

『認知症とは』『認知症の摂食嚥下障害について』の2つのテーマで座学を行い、グループワークでは事例検討を行いました。『認知症とは』では、認知症の中核症状と周辺症状についてお話しし、基本を一緒に学びました。『認知症の摂食嚥下障害について』では、4大認知症（アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型、脳血管性）各々の摂食嚥下障害の特徴について触れ、症状ごとの対応策もお伝えしました。グループワークでは、“アルツハイマー型認知症の方の拒食行動の事例”について問題点の読み取りを行い、解決策を話し合いました。模擬的な多職種カンファレンスの形式をとることができ、参加された方の経験則に幅がありながらも職種を活かしたそれぞれの視点で活発な意見交換となりました。

研修会に参加された方からは、「グループワークで自分の気づかなかった問題点などを知ることができた」という感想をいただきました。主催した私達も施設職員の多様な視点に触れる事ができ、知見を広げる事ができました。

昨年度に引き続き摂食嚥下に関わるテーマで研修会を開催していますが、今後も摂食嚥下の分野を掘り下げつつ、その他テーマでの研修も企画していきたいと考えております。



外来診療費におけるクレジットカード利用開始のお知らせ

8月より、これまで多くの患者さんからご要望いただいております、外来診療費のクレジットカード払いをご利用頂けるようになりました。ご不明な点は外来会計窓口にお尋ね下さい。【対応カード】：VISA/MASTER/JCB

WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

